

令和6年度（2024年度） 須坂高等学校 学校評価（部署別）

10須坂高等学校

領域	対象	今年度の具体的目標（評価項目）	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	教育課程	1 SAHの提案を基に、生徒の進路希望に、より対応した教育課程になるよう研究をすすめSAHに協力する。	生徒個々の進路希望をもとに、その実現に向けた科目配置ができたか。	リベラルアーツ型単位制の理念に基づき、生徒個々の進路希望や興味関心に応じた多様な科目選択を実現できた。	A	多様化している生徒個々の進路希望に応じた科目選択について、さらに研究していく。
		2 SAHの提案を基に、大学入試改革と新学習指導要領を見すえた授業時間や科目の配置について、新しいスタイルを研究しSAHに協力する。	教育課程編成にあたって、大学入試改革を意識し、それに伴った授業時間や科目の配置について研究を進めることができたか。	共通テストに新たに導入される科目について、授業時間に適切に配置し、対応することができた。次年度の科目選択においても、生徒たちが、これらを意識した選択をするための支援ができた。	A	大学入試改革の動向とその影響を慎重に見極めながら、教育課程にも反映していく必要がある。
		3 「主体的・協働的・深い学び」のあり方について、教育課程の面から検討していく。	教職員で情報を共有しながら、意識を喚起していくことができたか。	職員個々の研究や委員会の中での研究はなされていた。これらの情報共有については、さらなる工夫が必要である。	B	校内研修などの場面を通し、職員間の情報共有と意識喚起を図っていく。
教育活動	進路支援	1 主体的な学習姿勢、および継続的計画的な学習習慣の確立を図る。	・オリエンテーションや面談を通して家庭学習の習慣を確立させる指導ができたか。 ・自主学習を支援するための学習環境の整備ができたか。	特に1年生に家庭学習の習慣の定着を目指した取り組みを1学期に集中して行った。 ・大きな学力差に対応するため、レベル別課題の設定や、生徒が課題を選ぶように工夫した。	B	現在の取り組みを継続しつつ、学習意識の大きな差に個別に様々な教員が対応できるようにする。
		2 キャリア教育に関するイベントの充実を図る。	・イベントを通じ、自分の将来を深く考える支援ができたか。 ・事前・事後の活動を充実させ、人生観の向上が図れたか。	・生徒の進路意識を啓発するための面談を定期的実施した。 ・夏休み前に新たに「進路ウィーク」を設定し、高大接続を意識した活動を行った。 ・イベントの前後にはレポートを提出させることで、進路意識の涵養につなげることができた。	A	「進路ウィーク」を更に発展させ、大学進学への意識を一層高めていく契機とする。 ・講師派遣にかかる費用捻出のため、進路予算の執行を工夫していく。
		3 希望進路の実現に向け、適切な指導を行う。	・学年通信や進路講話等により学年や時期に応じた情報を提供できたか。 ・教科指導を充実させることができたか。 ・小論文や面接の指導を充実させることができたか。	・各学年で工夫した学年通信を発行し、時機に応じた情報を提供することができた。 ・小論文や面接指導に活かせるような教員向け研修講座を提供し、指導に活かされた。 ・小論文指導・面接指導共に丁寧に指導することができた。	A	情報を提供するだけでなく、多様な価値観を持つ生徒の個別のニーズをできるだけくみ取り、指導に反映させる。 ・教員用小論文指導研修講座を工夫し、利用状況をより高める。
教育活動	生徒支援	1 学校生活の中で生徒自らが個性の伸長を図りながら、好ましい人間関係を育てる。	・生徒自ら基本的な生活習慣を確立させるべく仕向けることができたか。 ・「いじめ」などがなく、生徒が安心して学校生活を送れるような支援体制作りができたか。 ・情報モラルに関する意識を高めることができたか。	・遅刻調査を年4回、アセス(生活環境適応感尺度)を年2回実施。それらに基づいて支援を行ってきた。 ・前年度からの課題であったアセスのスピード感についてはICTの利用によりスピード感を持って実施・検討することができた。	A	様々な改善に向け、実施方法等の再検討を行いつつ、学校全体での協力体制を整え実行していき、生徒自身の成長を促していきたい。
		2 日常生活で直面するさまざまな課題に対して、主体的に判断して行動する力を養う。	・私物や貴重品の管理を徹底させることができたか。 ・交通安全の意識を高めることができたか。	・係としては生徒会とも協力しながら注意喚起を行うことはできていたが、実際には意識の高まりは限られており、外部からの指摘も多くなった。	B	日頃からの注意喚起を行いつつ、生徒会とも協力し、自身を守るためにも、行動に移せるよう意識の向上を図ってきたい。
		3 自分の行動に責任を持たせ、精神的に成長・発達しようとする過程を支援する。	・生徒会、校風委員会等と連携して、目標の実現をめざすことができたか。 ・保護者や関係機関との連携を密にした支援体制を作ることができたか。 ・「特別な事情のある生徒」に対して、個々の状況に応じて情報共有や支援ができたか。	・自転車管理、個人ロッカーの管理等校風委員会と連携協力しながら活動ができた。 ・生徒の多様化に伴って、今まで以上に関係各所との連携が必要になってきている。密に連携を取りながらしつかりとサポート体制がとれた。 ・より一層コミュニケーションの大切さを感じた。より細かな対話をいかに補っていくかが課題と感じている。	A	・アセスを活用し生徒の多様性に対応すべく、校内外の関係諸機関との連携を密にし、情報共有をしながら、生徒へ個々の対応をしていきたい。 ・支援室のあり方自体を再検討し、問題点の改善を図り、学力保障も含め、学校全体での支援体制を整えていく。 ・学校目標でもある基本的な生活習慣の確立を学校全体で考えていき、生徒自身が意識し、行動に移していけるよう支援していく。
教育活動	人権平和	1 基本的な人権に対する認識を深め、主権者としての自覚を高めるとともに、他者の人権を尊重する姿勢を育てる。	人権について現実の事象に学び、解決の方策を考え、行動しようとする意志を喚起させるような学習や研修の機会を設けることができたか。	・1学年を中心に、SNSに関する講演やSSTを実施し、人権を尊重した人間関係構築のあり方などについて学ぶ場を設けた。 ・全校を対象に人権教育講演を実施し、LGBTQの当事者であるシンガーソングライターの演奏と講演を聴いた。明確なメッセージをどのように受け止めるか、生徒一人一人が自己の内面に向き合う機会となった。	A	学校を中心とした日常生活に、学びにより培われた人権意識がどのようにあらわれるかを継続的に観察し、主権者意識を育む取り組みとともに人権教育を推進していく。
		2 自主的・民主的な集団づくり、協働的な仲間づくり、いじめや差別をなくす関係づくりを日常生活の中で図る。	仲間を大切にし、問題に気づくような気持ちを育ませる集団づくりや教育活動を行うことができたか。	授業・生徒会活動・部活動等で対面での対話・議論を行う機会が増え、他者の視点や感覚を尊重しともに向上することを志向する姿が見られた。	A	同様の教育活動を継続し、視野を地域や世界に広げて考える機会を増やしていく。
教育活動	生徒会	1 より良い学校生活を送るためにお互いの意見や立場を尊重しながら計画を立案し、その計画の実現を目指せるよう支援をする。	・「生徒原則」の内容を深め、「自主自律」の学園生活を送るための議論が生徒総会などでなされたか。 ・執行部の提起を受けて、ホームルームで議論を深めることができたか。	・「生徒原則」の理念を学校生活の中で、特に生徒自身の「学び」に対する自主自律とは何かを問う「フリートーク」を開催するなど、「生徒原則」を引継ぎ発展させる取り組みができた。 ・執行部の方針を提起するホームルーム討議が定着している。	A	・「生徒原則」「りんどう祭憲章」など議論をへて策定した伝統をさらに発展させた。
		2 生徒会執行部、各委員会が連携して活動ができるよう生徒間の協働性を向上させる。	・執行委員会が原案に基づいた議論ができていくか。 ・生徒会活動全般について、執行部が全体の内容を把握し一体となって執行できているか。	・執行委員会では、原案を提出して全体で確認する手続きが取られている。 ・定例会以外でも臨機応変に執行委員会を開き全体で取り組みを確認している。	A	・図書委員会をはじめ委員会活動が充実している。学校生活に密着する関心や課題を積極的にとりあげて解決していく取り組みを支援した。執行部の全体的な方針が重要になる。
		3 地域社会へ積極的に発信し、地域に開かれた生徒会活動を目指す。	・地域に開かれ、地域に発信するような内容のりんどう祭になっているか。 ・地域の活性化を目指す生徒の自主的な活動に対する支援ができたか。	・地域の支持や理解を得てりんどう祭が開催できているという認識がやや希薄になっている。 ・個々の生徒やクラブは別として生徒会として地域の取り組みに参加したり、課題を共有したりする機会が不足していた。	B	・生徒総会で策定した「りんどう祭憲章」の理念を確認し、基本方針を継り上げも一度りんどう祭を再生したい。 ・地域が抱える課題とリンクした取り組みを多方面がすすめるよう検討したい。
教育活動	図書・視聴覚	1 図書館利用の拡大を図り、読書習慣を定着させる。	図書館利用が増えたか。	新図書館になり、場所としての利用は大いに増えた。読書啓発の取り組みは図書委員会を中心に行った。蔵書全てを利用できるようになり、貸出は若干増えた。	A	来年度も授業での利用が見込まれる。来館を読書への興味に繋げられるような工夫を考えたい。また、読書週間等に生徒の声を生かした活動を考えたい。
		2 教科・授業、小論文に関する資料の充実を図る。	利用者の要望に応じることができる資料の充実が図れたか。	引き続き、授業や受験に役立つ本の収集に努めた。	B	必要な本をさらに充実させるとともに、司書によるレファレンスサービスの活用も促したい。日頃から受験を見据えた読書にも目が向くようPRをしていきたい。
		3 快適な環境を整え、更なる施設の利用促進を図る。	自主学習などにも、多くの生徒が利用したか。	リノベーションで環境が良くなり、授業での利用が多い。また、受験期の3年生には大いに利用された。	A	1、2年生の自主学習の利用促進、自主学習以外でも整備された施設を活用した取り組みを計画したい。
		4 視聴覚室及び視聴覚教材の有効活用と各部署との連携を図る。	利用しやすい環境を整え、視聴覚室が有効に利用されたか。	断熱工事後は授業教室として利用されている。県の視聴覚教材の広報を実施。	B	校舍改築に合わせ、来年度も授業教室としての利用が見込まれる。

令和6年度（2024年度） 須坂高等学校 学校評価（部署別）

10須坂高等学校

領域	対象	今年度の具体的目標（評価項目）	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	保健	1 心身の健康管理を図る。	保健室への来室者への対応が適切であったか。また、感染症対策を含め、関係者や担当部署との連絡・連携ができていたか。	担任や関係職員・SCと連携を積極的にとることができた。感染症対策については、オクレンジャーからの情報は全職員で共有できたが、それ以外の感染報告が迅速にできないところがあった。	B	緊急対応（救急車要請時）のために職員対象の救急法講習会の充実を更にすすめたい。次年度以降、感染症の校内システムの更新を検討する。
			学校保健安全法に則り、各種健康診断を計画的に実施し、事後指導が適切であったか。	定期健康診断は計画通り実施し、その結果をもとに必要な生徒には、個別指導を行った。今年度は歯科検診の事後指導の充実を図った。	A	今後さらに通知を複数回配布し、受診率の向上を図ってきたい。個別指導も充実していきたい。
			2 環境の管理を図る。	学校環境衛生検査を適切に行い、その結果を生かされたか。	学校環境検査は計画通り実施している。結果を保健だよりに掲載し生徒・職員で情報共有できた。学校薬剤師と連携し結果を生かした。	A
		3 保健指導を充実させる。	校内の危険箇所、安全に配慮が必要となる箇所の確認・改善ができたか。	学校安全衛生委員会と連携し、チェックリストで毎月確認した。	A	特に緊急性が必要な施設・箇所は優先的に予算措置をお願いしていく。
			コロナ対策を含め、自身の健康課題に対して、興味関心をもてるような広報活動ができたか。	保健だより、保健関係の掲示物で継続的に広報活動を行っている。リアルタイムで感染状況を配布し注意喚起を促した。	A	継続して広報活動を行い保健指導の一層の充実を促す。
			・保健委員会等による広報活動を行ったか。 ・保健委員会の活動支援ができたか。	保健だより、保健関係の掲示物で継続的に広報活動を行っている。2024年12月までは歯の健康の連載。2025年1月からは眼の健康の連載をしている。	A	継続して生徒の自主的活動を支援する。
教育活動	PTA	1 PTA活動を通し、学校と保護者及び保護者間の情報交換と親睦が深められるよう努める。	・PTAの諸会合の案内や活動に関する情報を、会員に周知できたか。 ・PTA総会・学年PTAに多くの保護者が参加したか。 ・学年クラスの保護者の意見を、全体で共有できたか。 ・職場見学や就業体験へ保護者の支援が深まったか。	・会合案内や情報発信は書面配布を基本とした。学校生活を応援する親の姿勢を生徒に診てもらうことが大切と考え、参加者は前年度並みで、参加予定調査より一割程度少ない人数が参加していた。 ・評議員会で保護者アンケート集計を報告し、記述意見に關しても話題とした。 ・20件弱の就業体験について、保護者から賛辞をいただいた。	B	・会合に参加のうえ、対話できる雰囲気醸成に努める。まずは評議員会の質疑応答の工夫が望まれる。 ・PTA総会当日に、クラブ活動懇談会が多く開催されるよう支援していく。 ・保護者に向けて、引き続き就業体験への支援をお願いしていく。
		2 PTA研修会が保護者にとって、本校生徒の生活や進路指導についての理解と研究を深める機会となるよう努める。	・PTA研修会の案内や講師に関する情報を、会員に周知できたか。 ・PTA研修会に多くの保護者が参加したか。 ・PTA研修会の満足度は高かったか。	・開催通知は書面配布（生徒経由）とオクレンジャーでの送信を併用した。 ・国際情勢に關して、本校卒業生の講演を行った。講師の高校大生生活の話題も交え、生徒の応答が良く、保護者にも好評だった。	A	・オクレンジャーでの情報発信方法をさらに研究する。 ・研修会の演題を、保護者宛の子育て情報とするか、生徒同席聴講の人生論的課題とするか、二年後の開催に向け準備を始める。
学校運営	教務	1 学校が円滑に運営されるように努める。	校内の諸行事を適切に計画し、運営できたか。	・早めに計画し、各部署と連携して、諸行事を円滑に運営することができた。 ・台湾からの生徒訪問を2回受け入れて、式典を行い、交流を深めた。	A	職員会での1カ月前提案を目安に、今後も引き続き、各部署と連携しながら計画を進めていく。
			学校内規を見直し、整理することができたか。	内規を見直すのが一部だけとなってしまった。	B	現状の運用に見合うように修正しながら進めていきたい。
		2 校内の情報を外部に発信し、本校への一層の理解を深めてもらう。	公開授業、体験入学、学校説明会、中学校への個別説明会を行い、多くの中学生・保護者へPRすることができたか。	中学校訪問を行い、中学校の先生と交流できたのはよかった。体験入学などもほぼ例年通りの参加者数であった。	A	多くの中学生に体験入学に参加してもらえるよう工夫（日程調整、内容など）を検討したい。
学校運営	情報処理	1 情報処理機器及びネットワーク利用による校務の合理化の推進を図る。	校内ネットワークを安定的に維持管理するとともに、各種情報機器のトラブルに迅速に対処することができたか。	情報機器の増加や経年劣化により、トラブルの発生件数が急増している。授業や校務に支障が出ないよう、できるだけ迅速な対応を心がけた。	B	長期使用しているプリンターなど、修理対応ができない機器が増えている。適時の修繕や更新を計画していく必要がある。
			統合型校務支援システムの運用を円滑に行うことができたか。	校内掲示板機能、出欠入力機能および成績処理機能を利用し、操作性や問題点を確認してきた。	B	既存のデータ処理システムとの連携と校務支援システムへの移行を円滑に進めていく。
		2 情報処理機器及びネットワークを利用した教育活動の推進を図る。	授業や各種講演会、研究授業等で、校内のWi-Fi環境や生徒用iPad等の情報機器を活用できたか。	・全生徒がiPadをもつ環境のもとで、各教科の授業でICT機器を有効利用できた。 ・オンライン授業やWeb会議等で情報機器を活用している。	A	全生徒がiPadをもつ環境を生かし、全教育活動において機器を有効に活用できるよう、継続して研究を深めていく。
			デジタル教材や機器の導入・更新を進め、教育活動におけるネットワークの活用を推進できたか。	Web会議の急増、オンライン授業の多様化に対応するための機器の導入や、利用に関する研修、サポートを随時実施してきた。	A	校内のデジタル環境の急激な変化と多様化に対応できるよう、見直しをもった機器の導入・更新を今後も続けていく。
		3 情報の管理という面で個人情報や著作権に關して職員や生徒へ周知を図るとともに、ホームページを通じた適切な情報発信をおこなう。	個人情報や著作権保護、セキュリティ確保の大切さを職員と生徒に伝えたか。	・年度当初に周知を図った。 ・セキュリティを確保しつつ、公務を円滑に遂行できるよう、各種研修会を行った。	B	今後はクラウドサーバーの利用が進むと予想される。データを安全に管理し活用していく方策を検討していく必要がある。
			学校ホームページについて、各係から依頼された話題を迅速にHPにアップすることができたか。	行事が行われるたびにホームページを更新することができた。	A	閲覧しやすいようにホームページがスマートフォン対応になるように刷新する。